

安心して

子どもを産み育てるために



お金のことや生活のこと、心と体に関することなど、出産や子育てには多くの心配事があります。今回は、出産を経験した人、お産をサポートする立場の人と一緒に、安心して出産・子育てをするためのさまざまな取り組みについてお話しします。

出産を担う医療機関の現在

市長 はじめに、お子さんが生まれる現場の状況について、佐藤先生に伺います。最近、全国的に産科の医療機関が減っているようで、新聞報道などでも、産科がない自治体や医院の閉鎖といったニュースを目にしますね。高崎は大丈夫だろうかという心配もあり、本市では、産科の医療機関の運営体制が維持できるよう、医師や助産師、看護師といった人材確保のための支援を始めました。

佐藤 今、分娩数の減少や、産科医師が少なくなっていることもあり、市からの支援は経営的に非常に助かっています。高崎市の事例を日本産婦人科医学会で報告したところ、全国の先生方から、高崎をモデルケースとして、ぜひ自分たちの自治体でもやってほしいという動きが起きているんですよ。

市長 それはうれしいですね。市民に

とって信頼できる産科が身の回りにあるという環境はとても大切です。突然産科がなくなってしまうと、安心して出産に向き合えなくなってしまうからですね。決して大きな支援ではないかもしれませんが、今後もしも注意して見ていこうと思っていますよ。

経済的な負担の軽減のために

市長 妊娠や出産にはさまざまな不安や課題がありますが、その一つに経済的な負担があります。国はこの状況を改善しようと取り組んでいて、本市もプラスアルファの支援として、初回の妊婦健診や出産前の健康診断、出産入院費用の支援など独自の取り組みを行っています。館野さんは小さいお子さんがいますが、やはり経済的な負担は大きいですか。

館野 今は支援がたくさんあるので、子どものことに関してはそれでだいぶ助かっています。

市長 「出産・子育て応援ギフト」の10万円は、市内の企業の応援にもつながるよう「高崎通貨」でお渡ししていますが、館野さんはご利用になりましたか。

館野 はい。おむつや離乳食などを購入する際に使わせてもらっています。

知ってほしい

周産期の心のケアの大切さ

市長 続いて、精神的なサポート体制についてです。慣れない育児生活で精

ね。

今村 子どもはたくさんの人の愛情や関心をもらって育つことができる存在で、同じようにお母さんたちもたくさんの人から思いやりや気遣いをもたらすことで、子育てを乗り切れるものだと考えています。核家族化で地域のつながりも少なくなる中、子育て環境は閉鎖的になりがちです。適切なケアを受けることで、前向きに子育て期を過ごせるよう、気軽に社会のサポートを受けていただきたいですね。

館野 私は今、日々の子どものちょっとした成長を見るのが楽しみです。子育てにはもちろん苦労もありますが、子どもがいることで、私自身も一緒に成長しているなど実感しています。本当に子どもは宝ですね。今日のお話で、子育てに不安や悩みがある人のための支援がそろっていることを多くの人に

夫婦共に生まれも育ちも高崎市。現在は育児休業を取得し、1才10か月と3か月の2人の男の子を育てる。今回の対談は、次男の晴香ちゃんと一緒に出席



今村 禎子さん



産科婦人科館出張佐藤病院副看護部長。助産師、母性看護専門看護師として、周産期メンタルヘルスケアや産後ケアなど女性や家族の支援を担う。自身も子育てと仕事を両立

知ってもらいたいです。
市長 昔と比べて、多くの職場で育児休業の取得や柔軟な働き方が浸透するなど、子育て中のご家族に対して、多くの人が寛容で温かく見守ってくれるようになったと思います。市も、子どもが体を使って思い切り遊べる公園や、まちの緑化などを通じて、子育て中の親御さんたちにとって過ごしやすく子育てしやすいまちづくりを続けていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

一同 ありがとうございます。

対談の様子を動画でご覧いただけます



富岡 賢治市長



子育て環境を良くすることを最重要課題と捉え、妊娠・出産・子育てに対するさまざまな施策を実施。子どもを産みやすく、育てやすいまちを目指す

神的に疲れてしまうお母さんのために「産後ケア」というサポート事業がありますが、館野さんはご存知ですか。
館野 私は実家で両親と夫と一緒に住んでいるので、時々家族に助けってもらっているんです。まだ産後ケアを利用したことはありませんが、産後の心のケアは心強いサポートだと思います。

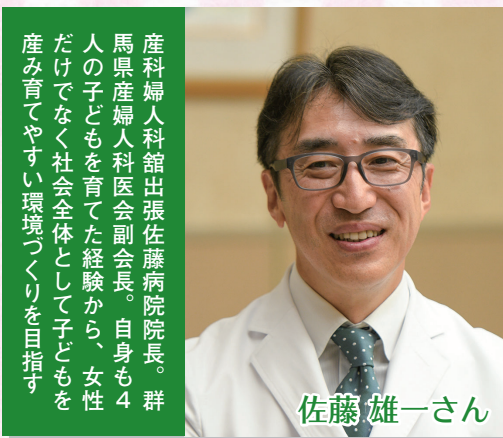
市長 近くに両親がいると心強いですね。産後ケアは佐藤病院にも担ってもらっていて、今村さんは看護師・助産師という立場で関わっていただいているようですが、出産後、女性は精神的に不安定になりやすいそうですね。
今村 はい。ホルモンの影響で、産後はちょっとしたことで落ち込みやすく、精神的なダメージを受けてしまうこともあります。周りにサポートしてくれるご家族がいなくても、医療機関や産後ケアの施

安心して子どもを産み育てるために

設などを利用して、体と心を休めてもらうことが大事だと感じています。
市長 本市では、助産所や医療機関などにご協力いただき、産後ケアの利用が年々増えています。精神的なケアは本当に大切ですね。産後ケアの基本は、よく話を聞くということでしょうか。

今村 はい。女性の特性なのですが、相手に話を聞いてもらい、受け止めてもらうことで、心身ともに疲弊しやすい出産後の癒やしにつながるんです。
佐藤 周産期である妊娠中から産後にかけての女性は、ホルモンバランスの急激な変化や、赤ちゃんが生まれて生活スタイルや環境が変わることで、産後うつになったり仕事に復帰できなくなったりしてしまう人もいま

佐藤 雄一さん



産科婦人科館出張佐藤病院院長。群馬県産婦人科医会副会長。自身も4人の子どもの育てた経験から、女性だけでなく社会全体として子どもを産み育てやすい環境づくりを目指す

これから

妊娠・出産を迎える人へ

市長 最後に皆さんから、これから子どもを育てようとする皆さんにメッセージをいただけますか。

佐藤 私たちとしては、人生においてそう何度もあるわけではない出産という経験を素晴らしいものにするためのサポートをしたいと思っています。お子さんが産まれた時の「うれしい」という感動が「もう一人子どもを産みたい」という気持ちにつながるよう、より良い環境を整えていきたいです。

たりしてしまう人もいま

